



■今月の PICK UP

災害実動訓練、 病院フェスティバル開催

■REPORT

災害実動訓練
病院フェスティバル開催
ワーキンググループ活動報告
アビガン “SFTS治療薬に”
オプション検査のお知らせ

教えて! 片渕Dr.《Vol.13》
くま川がんサロン開催
渡辺元看護部長「瑞宝双光章」受章
イベント開催のお知らせ

9月28日大規模地震災害を想定した人吉市総合防災訓練が実施され、当院も災害拠点病院として災害実動訓練を行いました。

同日8:00人吉盆地南縁断層を震源とする震度6弱の地震が発生したものと想定し、人吉市災害対策本部との災害状況の情報伝達、地域の医療機関（球磨病院、外山胃腸病院、愛生記念病院）や保健所との患者受入れ、避難所についての連携・搬送訓練を行いました。

院内では停電発生を想定し、発災直後は紙カルテ運用し、患者の受け入れとトリアージ、各エリアの活動展開までとり行いました。

今回も清水建設協力のもと、IT（MCP支援システム）を活用し、スタッフの安否確認、院内の被災状況確認、

トリアージ展開ではQRコード付きのトリアージタグを用い、対策本部でスタッフや患者の動向をリアルタイムで確認がとれるようシステム化を図りました。

今後は正式にMCP支援システムを導入予定としております。

有事の際に人吉球磨地域の災害拠点病院として、患者さんの救済、及び病院設備の機能確保を最大限に行えるよう、今後も連携強化を図ってまいります。

訓練にご協力いただきました地域協力会・学生ボランティア・アマチュア無線の皆様方、地域の関係者の方々、本当にありがとうございました。

医療福祉連携室 野々上 真一

災害対策本部



スタッフの配置や院内インフラ等情報確認・集約、搬送傷病患者状況リアルタイムに把握

各傷病者エリア

依頼 ↑ 情報共有 ↓ 指示



搬入患者情報を入力・画面へ反映



各エリアの状況共有



平行して紙運用



DMTからの搬入・引き渡し



トリアージエリア



各エリアへ

JCHO人吉医療センター 病院フェスティバル

災害実動訓練のあとは、第17回病院フェスティバルを開催しました。

屋外では飲食屋台の出店、病院前のステージでは人吉第一中学校生による吹奏楽にはじまり、あさぎり町和太鼓保存会による和太鼓、人吉よさこい銀翔会によるよさこい、笑福会によるひょっとこ踊り、渡邊医師とその仲間によるミニコンサート、REALIZE ENTERTAINMENTによるダンス、くまもんステージと迫力あるダンスや演奏など大盛り上がりでした。

院内では緩和ケア市民公開講座や各部署工夫をこらしたブースを展開し、約600名と多くの方にご来場いただき、天候も心配されましたが、無事開催することができました。ご出演いただきました方々、ご協力いただきました出展者の方々、地域の方々に本当にありがとうございました。

今後も地域に開けた医療機関として、イベント等開催を継続していければと思います。

病院フェスティバル実行委員 宮原 由佳



よさこい



手術体験



緩和ケア市民公開講座



ひょっとこ踊り



ご来場ありがとうございました。

医療チーム紹介

熊本県心臓リハビリテーション推進事業 ワーキンググループ活動報告

近い将来の“心不全パンデミック”対策の一環として、熊本大学病院を中心に県内62医療機関が参加し、心臓リハビリテーション（以下心リハ）普及により循環器診療の質を向上させ、地域の健康と福祉の促進を目的として活動しています。活動開始から約2年で「熊本県心リハ地域連携パス」の導入率は全国トップレベルの16%を達成し、昨年は熊本大学医療活動表彰、くまもとSDGsアワード優秀賞を受賞しました。

メンバーは循環器内科医師・理学療法士（以下PT）・健康運動指導士・作業療法士・管理栄養士・看護師・臨床検査技師・薬剤師・事務・臨床研究コーディネーターの多職種構成（9部門）で、尾上医師は急性期改革部、那須PTは地域差対策部、森下PTは資格試験サポート部、私はパス部に所属し、熊本メディカルネットワーク（KMN）によるデータ送受信を勧め、普及と運営費削減に尽力しています。ボランティアによる時間外活動が主となりますが、心リハ指導士を増やし、高齢循環器疾患パンデミックに耐えうる知識システム構築に向けて、鋭意精進したいと思います。

治験センター 臨床研究コーディネーター 岩崎 ユリ



尾上 喜郎



那須 智久



森下 耕靖



岩崎 ユリ

アビガン “SFTS治療薬に”

重症熱性血小板減少症候群（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome : SFTS）は、主に SFTS ウイルスを保有しているマダニに刺されることにより感染するマダニ媒介感染症で、感染症法では四類感染症に位置付けられています。

2013 年 1 月以降国内で初めて確認されて以降、2020 年まで毎年 60 ～ 100 名程度報告されており、2023 年は過去最高の 113 名が報告されています。国立感染症研究所の研究では日本の致死率は 27% の報告もあり、西日本において多くの発生報告があります。

感染経路は、主に SFTS ウイルスを保有するマダニに刺されることによる感染や、SFTS を発症している動物との接触により感染することもあります。「潜伏期」は 6 日～ 2 週間程度です。症状は、発熱、消化器症状（食欲低下、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛）が中心です。時に頭痛、筋肉痛、神経症状（意識障害、けいれん、昏睡）、リンパ節腫脹、出血症状などを伴います。重症化し、死亡することもあり、早期の診断・治療が必要です。

抗インフルエンザ薬「アビガン錠」の使用が 2025 年 5 月 24 日に了承され、SFTS に対する世界で初めての治療薬となります。

当院でアビガン錠が使用できる環境が整いましたので、SFTS を疑う症例は、ご紹介ください。

総合診療科 田浦 尚宏

薬剤部 木下志保里

写真（国立健康危機管理研究機構昆虫医科学部提供）

厚労省 Hp より <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000169522.html>



フタトゲチマダニ



キチマダニ



予防医療センター 「オプション検査」のお知らせ

ロックスインデックス(LOX-index)検査

ロックスインデックス検査とは動脈硬化の原因物質を測定し、将来の脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを評価する検査です。

動脈硬化は、自覚症状がないまま進行し、ある日突然脳梗塞・心筋梗塞を発症してしまいます。ロックスインデックス検査は、動脈硬化の引き金となっている血液中の酸化した超悪玉コレステロール〔酸化変性 LDL〕とそれを血管の壁に取り込んで動脈硬化を進ませる〔LOX-1〕というタンパク質を測定し、動脈硬化の進行から将来の脳梗塞や心筋梗塞の発症危険度（リスク）を評価します。脳梗塞・心筋梗塞のリスクが分かれば早めの予防

対策を取りリスクを減らすことができます。

LOX-index でご自身のリスクを知り、将来に備えてはいかがでしょうか。



検査費用
13,200 円（税込）

腸内フローラ検査

腸内フローラ検査とは、私たちの腸内に住んでいる腸内細菌のバランスを調べる検査です。この検査では、便に含まれる腸内細菌を解析することで、腸内環境を「見える化」し、自身の健康状態や生活習慣を見直すためのヒントを得ることができます。「なんだか不調…」「最近、疲れやすい…」と感じるときも、カラダの声を読み解けば新たな一歩が見えてくるはずです。腸内環境を知り、今の自分の健康状態を正しく理解することで、より自分らしい選択ができ、健やかな毎日へとつながります。

腸内フローラ検査を通じて、これからをもっと健康に、充実した日々を楽しむために検査を受けてみませんか？



検査費用
19,800 円（税込）

（お問い合わせ・申込み先）人吉医療センター予防医療センター TEL 0966-22-7070（平日 9：00 ～ 16：00）



教えて！片渕Dr.

Dr.KATABUCHI SPECIAL COLUMN

Vol.13

アンジェリーナ・ジョリーが教えてくれた「遺伝性がん」 …家族や親戚のがんをチェック

産婦人科 片渕 秀隆

2013年5月14日の米国の新聞『ニューヨーク・タイムズ』に、当時37歳だったハリウッド女優のアンジェリーナ・ジョリーによる「私の医学的選択」が掲載され、その2週間後の『タイム』誌では彼女の写真が表紙となり「アンジェリーナ効果」として大きく報道されました。彼女には乳がんや卵巣がんの発生が高くなるとされる「BRCA1 遺伝子の変異」があること、さらに乳がん予防のために両側乳腺の切除術を受けたことを明らかにしました。その2年後には、卵巣と卵管の切除術を受けたことも公表しています。彼女の母親は卵巣がんのために56歳に亡くなっており、乳がんや卵巣がんで若くして亡くなった親戚がいたことが背景となっています。この彼女の勇気ある一連の公表によって世界中の人々が「遺伝性がん」の存在を知ることになりました。

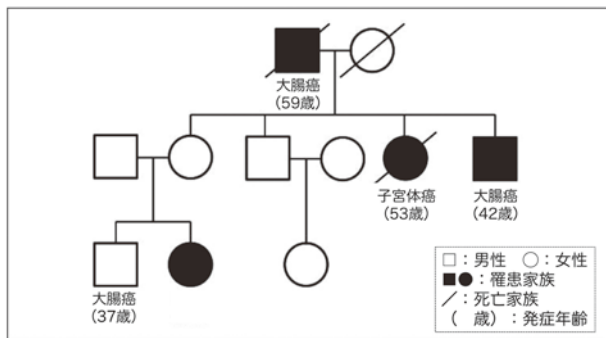
遺伝性がんは、がん全体の5～10%を占め、若くしてがんになったり、様々な臓器にがんが発生したり、家族や親戚にも同じ種類のがんの人が多いことが特徴です。多くの遺伝性がんは、常染色体顕性遺伝（優性遺伝）という遺伝形式で、親から子に変異のある遺伝子が受け継がれます。現在、原因となる遺伝子が明らかとなっているいくつかの遺伝性がんの中から、代表的な2つを紹介します。**遺伝性乳がん卵巣がん**は、英語表記からエイチビーオーシー（HBOC: hereditary breast and ovarian cancer）とも呼ばれ、BRCA1とBRCA2の2種類の遺伝子の変異が原因です。乳がんや卵巣がんに加え、BRCA2遺伝子の変異では、膵臓がん、前立腺がん、男性乳がん、メラノーマ（悪性黒色腫）、食道がん、胃がんなどのリスクが、BRCA1遺伝子の変異では胆道がんや胃がんなどのリスクが高くなることがわかっています。一定の基準を満たす場合の遺伝子検査や、遺伝子の変異がある人の乳房や卵巣・卵管を切除するリスク低減手術は保険診療で受けることができます。**リンチ症候群**は、以前は遺伝性ポリポージス大腸がん（HNPCC: hereditary non-polyposis colorectal cancer）と呼ばれ、MSH2、MLH1、MSH6、PMS1、PMS2の5種類の遺伝子の変異が原因です。大腸がんや子宮体がんが最も多く、その他に卵巣がん、腎盂・尿管がん、膀胱がん、小腸がん、胃がんなどのリスクが高くなります。この2つの遺伝性がんには**婦人科がん**が深く関わっています。

全国には「がん診療拠点病院」が指定され、熊本県内にも人吉医療センターを含む拠点病院には「がん相談支援センター」が設置されています。多くの拠点病院では「**遺伝カウンセリング**」も設けられ、遺伝性がんはもちろんのこと、遺伝に関する疑問や悩みの相談を誰でも受けることができます。受ける前にまずは、血縁のある家族や親戚のがんをチェックしてみましょう。



タイム誌（2013年5月27日号）

リンチ症候群の家系図（例）



米国国立がん研究所 (NCI)・医師向けデータ照会システム (PDQ*) の情報データベースより改変

人吉医療センター くま川がんサロンについて

当院では、がん患者さんやそのご家族の語らいの場として、くま川がんサロンを再開します。「同じ立場の人と話したい」「不安な気持ちを誰かに聞いて欲しい」「療養に役立つ情報が知りたい」など、患者さん同士が語り合い、がんに関する正しい情報を得ることが出来る場です。ミニ講座も行う予定です。開催については右記の予定となっていますので、どうぞお気軽にご利用ください。

開催日時：偶数月 第3水曜日 14時～15時

場 所：人吉医療センター 3F 研修室 1

参 加 費：無料

申し込み方法：事前申し込みは不要です。
直接会場へお越しください。

お問い合わせ先：人吉医療センター
医療福祉連携室 杉松・南

渡辺朋子元看護部長が「瑞宝双光章」を受章されました。

この度、春の叙勲で渡辺朋子元看護部長が長年にわたる看護業務への多大なる功勞が求められ、瑞宝双光章を受章されました。



イベント開催のお知らせ

- 11/13 栄養講話 「生活習慣病と食事～糖分について～」
13:00～13:30 2F 婦人科テレビ前 ※毎月第2木曜日同時間・場所にて開催予定
- 11/14 世界糖尿病デーイベント 10:00～16:00 本館 2F フロア
市民公開講座「今話題のやせ薬について」(糖尿病代謝内分泌内科 大磯洋医師)
- 11/28 11/30 (いいみとりの日) 意思表示啓発イベント 本館 2F 外来フロア
- 12/11 栄養講話 「年末年始の過ごし方」 13:00～13:30 2F 婦人科テレビ前
- 12/17 くま川がんサロン 「茶話会」 14:00～15:00 3F 研修室 1
- 2026/1/8 栄養講話 「生活習慣病予防と食事～脂質について～」
13:00～13:30 2F 婦人科テレビ前



人吉医療センター

理 念

145年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心の医療
患者の人権と意思を尊重します

診療 3 本柱
がん・救急・予防医療を中心に医療機能の充実を図ります

完結型医療
地域の医療機関と連携し安心できる医療の展開を行います

地域包括ケア

地域包括ケアシステムを推進し地域のまちづくりに貢献します

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療ボランティアの活動を行います

医療人育成

地域医療に貢献できる医療人の育成を行います

臨床研修理念

医師としての人格を涵養し、医学・医療の社会的役割を認識しつつ、
臨床に必要な基本的診療能力を習得し、全人医療を提供できる医師を目指します。

臨床研修の 基本方針

1. 人間性豊かな医療人の育成
2. 医療全般にわたる広い視野と高い見識を持つ医療人の育成
3. 患者の立場に立った医療を実践する医療人の育成
4. チーム医療のできる医療人の育成

5. 生涯学習をする医療人の育成
6. 地域医療に貢献する医療人の育成
7. 公的中核病院としての責務を自覚する医療人の育成

